

更なる飛躍を!

国技相撲甚句会

のり甚句

昨年12月21日に一年を締めくくる会の総会を開催。会計報告の後一年を振り返り、本年の計画を決めました。今年会員数を20名にする事を決議。稽古の月間テーマ甚句に取決め、会則の一部変更、各担当を全会員に割振りました。定例のイベントとして春の研修旅行は江ノ島・鎌倉(泊)。春分の日は靖国神社奉納。慰問は年間3カ所。地域の祭への参加も決まっており今年も忙しい一年になります。

京大会は会のモットーの全員参加で2チームが発表します。入会1~2年目のチームはベテラン勢をドスコイ隊にしてオリジナル企画で挑戦。楽しい甚句に乞うご期待です。発会7年目を迎え、会の名付け親先代永男会長の直系の教え子としての誇りを忘れず大相撲本場両国を拠点に更なる飛躍を目指します。

会長 永井順



新年あけましておめでとうございます

後を継いでから早いもので一年の歳月が流れました。暗中模索の中でのこの環境にもだいぶ慣れ、常に前を向き歩いて行きたいと願うとともに、父が掲げていた『仲良く、楽しく、面白く』を実践して行きたいと思っております。父は生前私に「甚句を唄つている人は、多くの人に見てもらいたいものなんだよ」と言つていました。その言葉をそのまま受け止め、より多くのお客様がおいでになる場をどう作ればいいか、これが課題でした。そんな中の昨年の全国大会は常に立ち見席状態になる程の大成功に終わり、多くの方々からお誉めの言葉を頂きました。

若輩者がこの会を支えようとしても、じり貧になってしまっては意味がない。会を、そして会員をどう増やすかも考えて行かなければいけません。永男の様な技もありません。しかしながらこれについても昨年度は、宝満甚句会、薩摩甚句会、敦賀甚句会と3団体の入会があり、着実に大きくなっています。

最近やっと父の甚句を整理しました。永男が作り三郎が唄う、永男が作り大至が唄う、永男が作り國錦が唄う、永男が作りのど自慢が唄う。そう多くの作品の中に父と甚句との歴史をかいま見ることができます。

相撲甚句



発行日
27年1月15日
一月場所号
No.85

発行所
日本相撲甚句会
〒130-0026 東京都
墨田区両国 2-21-5
ダイカンプラザ301号
TEL. 03-3635-8834
FAX. 03-3635-8854
編集 飯田三千代
<http://www.sumoujinku.com>



約50年という長い歳月をかけ「名所甚句」なるご当地ソングを数々手がけ、それをきっかけに多くの方々に大相撲共々喜ばれ、相撲甚句を日本全国に広めてきた事を思うと、改めて「すごい人」と思われるかもしれません。しかし、相撲甚句はあくまでも「相撲」があつての相撲甚句です。日本相撲甚句会では永男が掲げていた理念に『大相撲の伝統と文化を影から支える』との言葉があります。相撲には神聖な場所があります。それは我々日本相撲甚句会の中にも必要なものだ。見ず知らずの方が相撲甚句を唄う皆さんを見る時、一種のあこがれ「心」があります。それは我々日本相撲甚句会の中にも必要なものだと思つています。欲望や名声にかられる事無く、純粹に、神聖な気持ちで「楽しく唄う」だからこそ人々の心に残る。是非皆さんも相撲甚句の伝道師としてプライドと誇りを持ち、永男の様に決して威張らず、「心」を持つて唄つて下さい。そして私も父の名前を借りながら、受け継いできた相撲の「心」を伝えて行かなければなりません。

一般の社会に相撲甚句を広めてきた永男が創始者となる日本相撲甚句会はまさに相撲甚句を唄う方々の本拠地です。この二年の間に様々な事柄があり、まさに井の中の蛙でしたが、温故知新の心でこれからも皆様のお力を借りながら、益々の日本相撲甚句会の発展を心に誓います。

これからの予定

大相撲鳴津引退甚句

「燃えろ火を吐け 薩摩の健児 ヨー

アーティストとどこかと塗をまく 努力の力士若鳴津

生まれは南の種子島 学びし鹿児島商工と

雄島にと見送られ 鎧えし部屋なら二子山

五十五年に幕の内 土俵に波乱をまきまし

あの南海の黒豹と 津々浦々に異名とり

郷里の九州本場所 新大関にと昇進し

五十九年 初優勝 つづく名古屋で全勝と

六十年には最愛の みずえさんとの婚礼に

勝負にかけたる各場所も六十二年の七月に

炎の土俵も燃えつきて あまたファンに惜しまれつ

本日引退大相撲 年もあらたな初春に

これまで松下根親方の 第二の人生門出とし

どうぞご支鑑 願いますヨー

作呼出し 永 男

唄呼出し 三 郎

江戸東京博物館
相撲甚句全国大会
5月30日(土)

4月14日(火)
大阪主催 西部大会
3月14日(土)

2月21日(土)
東京主催 関東大会
総会両国ベルグランデ

2月7日(土)
平成27年

第11回 北部地区南部大会

26年11月8日



温泉で有名な花巻のホテルで南部大会が行われました。寒い時期での開催ということもあり、東北地区の方々の参加は少々少なめでしたが、北広島甚句会、青森甚句会、山形甚句会、東京から大坂甚句会の参加もあり、一般のお客様を呼び入れて、踊りの披露等もあり、和やかに行なわれました。南部甚句会の佐々木マルヨさんは車椅子での参加にもかかわらず、元気な唄声を披露してくれました。

第15回 東海地区御殿場大会

26年11月15日



上記写真にはありませんが、さがみ甚句会・鹿島甚句会も参加してくださいました。



武州相撲甚句会
佐々木勝也
会長 菅曉志郎

今年も敬老会の季節がやってきました。昨年もお邪魔した桶川市の「べに花ふるさと館」です。

「お帰りなさい、ここはあなたの心のふるさとです」と言うだけあって古民家をそのまま活用した落ち着いた施設です。今年も9月7日(日)「加納南部会・敬老会」にお招きを頂き甚句の披露を致しました。今年は2回目という事、そして入間川部屋の駒司関が応援出場してくれたこともあって参加の皆さん

から手拍子を頂く等大変な盛り上がりでした。後の会食では当館名物の手打ちうどんをたらふく頂き大満足の一 日でした

会長
佐々木勝也



秋はイベントの季節、特に九月は例年になく多方面からの甚句公演依頼が多く週二回のペースで水戸市内に限らず県内外からもお声がかかり、嬉しい悲鳴といったところでした。老人ホームと地域の納涼会、高齢者の生涯学習会敬老会のアトラクション等、会場の皆様と一緒に楽しめてもらいました。一時間半の公演では、一般的な唄のみならずお客様と唄うはやし唄、合間に相撲豆知識等を折込、盛り上げに工夫を：・こちらも勉強になります。お客様の声として、甚句は初めてきましたが素晴らしい、文句が良い、声が出ていて元気がある等・嬉しくお詫びの言葉を頂いて、また練習を重ね甚句の良さを広めたいと意を強くしてしております。

水戸相撲甚句会